

令和5年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【2年目】

報告日 7年 11月 日

P T A名	静岡県立伊豆の国特別支援学校 P T A	
学校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input type="checkbox"/> 小学部 <input type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
	全校児童・生徒数	198人

1. 使用状況

寄贈物品名	長胴太鼓
使用学年及び人数	高等部生徒67人
使用頻度	毎月10日間
使用状況	5月のなぎの葉祭体育の部(体育祭)、12月のなぎの葉祭文化の部(文化祭)を中心に、音楽の授業や特別活動の際に活用している。特に12月の文化祭での発表に向け、生徒が使用している。
物品の使用による変化や効果	開校時、他校から譲り受けた太鼓が4台ほどあった。少し小型であったり数も少ないことで、生徒による演奏も迫りに欠けるものであった。一昨年度、新しく大きな太鼓をいただいたことで、演奏の迫りも増し、生徒たちが意気込みをもって学習に取り組んでいる。一人一台太鼓を使用する環境が整い、生徒一人一人が生き生きと、伝統的な音楽(楽器)に触れることができている。体育祭の集団演技の始まりと終わりの合図にも太鼓を使用し、全体的に引き締まった演技の演出になっている。
今後の活用の見通しや課題	太鼓の迫力は、音楽活動のみならず、集団行動や集中力、協調性を育むうえでも有効な教材であると考えられる。練習の成果だけでなく、生徒間の協調性を育み練習の成果発表につなげられるよう、更に活用を考えていきたい。
その他希望や所感など	文化祭での和太鼓の演技は、生徒の意欲とあわせて和太鼓の音の響きが、観客を引き付けるものでした。今後も大切に活用させていただきます。ありがとうございました。

2. 活用の様子

練習の先には、12月文化祭での発表があります。

